



# T-time

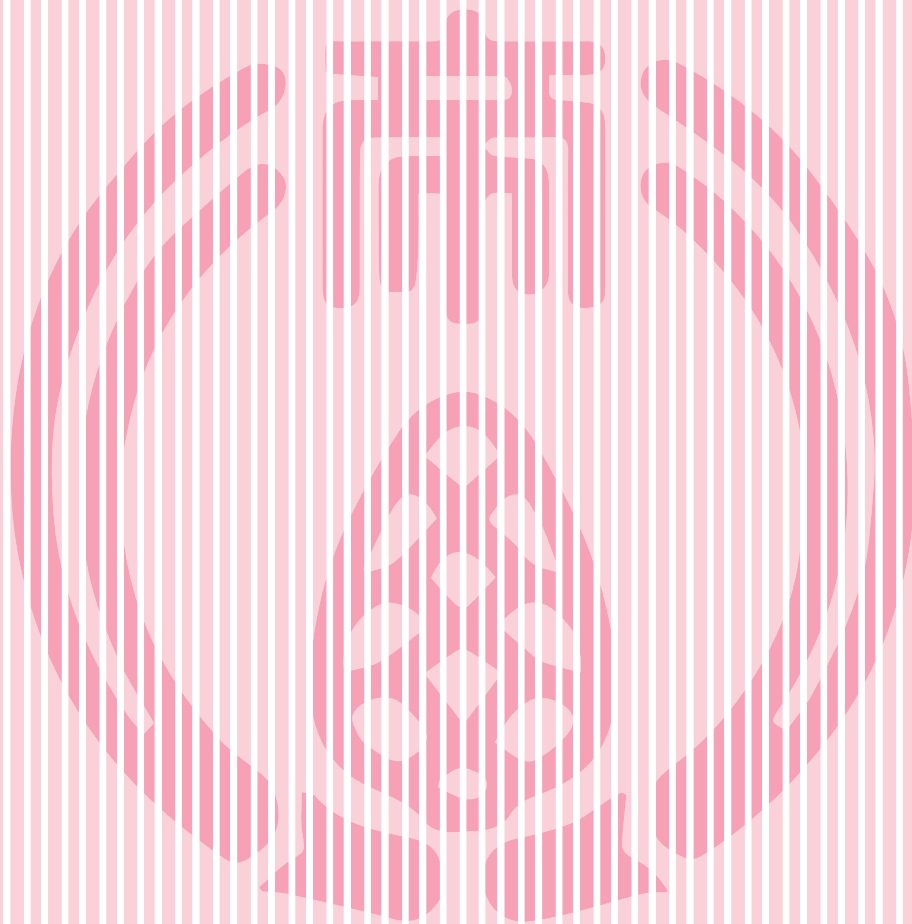
帝塚山学園広報誌

2018/Mar.

第2号

2018年3月8日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



# 全体最適の視点

帝塚山学園理事長 吉川勝久

「いかに優れた部分最適も全体最適には勝てない」

経営学者P・F・ドラッガー博士の名言ですが、これは全体最適の重要性を説いた言葉です。組織の成果を上げるためには、部分最適を目指して個々ばらばらに動いていたのでは、組織の向上につながらないという意味があります。

私たちはそれぞれが最善を尽くしさえすれば、組織全体が発展すると思いがちです。しかしながら、それでは学園が部分最適の集合体となり、求められているニーズや外部環境の変化、競合の動向が把握しづらい状況に陥ってしまいます。

学園組織全体の成果を向上させるためには、「自分たちのところはこれでいい」と自分本位の意識から脱して、新しい展開を見出し、「全体最適の視点」で改善・改革に取り

組む必要があります。それは、「今までやってきたから」というレベルのことから思い切って転換していくことであります。

また、ドラッガー博士は、「イノベーション（革新）を継続せよ」とも提唱しています。イノベーションとは革新を意味し、イノベーションを継続していくことで、取組の停滞や閉塞状況の打開、全体の成果と結びつけた責任感の醸成につながるということです。イノベーションをカタチあるものにするには、全体最適を考えた組織の意思決定とその強化が求められるのです。

さて、大学は平成30年度は経済経営学部が新たな学部として始動します。同時に文化創造学科が募集停止となり、文学部と共に定員確保は必須の目標であります。また、31年4月には、こども学科が教育学部に学部昇格し、

教育学部こども教育学科として誕生します。教育連携室と共に教育内容の充実を図り、魅力ある学部としてスタートダッシュが切れるよう頑張つてほしいと思います。さらに、法学部、心理学部、現代生活学部の食物栄養学科、居住空間デザイン学科も常に自らの改善・改革に努めていただきたいと思います。

今、国では、各大学の存在意義を定員充足で測ろうという動きがあり、定員を満たさない大学の存在意義が問われる時代を迎えようとしています。大学の存続を考えれば、存続意義の結果である定員充足は必然であり、大学の運営や運営のあらゆる事柄において、全体最適でベクトルを合わせ、この機を乗り越えていかなければなりません。

大学においては、大きな改善・改革が必要であり、最終的には、全体最適が帝塚山大学



の組織としての目標、計画、戦略、戦術でなければなりません。

現在、学園の小学校と中・高等学校の連携については、教育連携室が中に入り、全体最適での施策を進めているところです。

第4次中期計画・財政健全化計画においては、平成33年度、帝塚山学園の創立80周年をいい形で迎えるための計画目標を数値目標で示しています。この目標を達成するには、学校間の「一層の連携」と「部分最適ではなく、全体最適によるベクトル合わせ」、そして「組織力の強化」が絶対的条件であります。

今年は、戊戌（つちのえいぬ）年。戊戌は新たに芽生えたものがぐんと成長する年になり得るという意味であるようです。干支にあやかり、芽生えたものが成長していけるよう、皆様と共にスクラムのバインドを強め、佳き平成30年度を迎えたいと思います。

今後共、皆様の変りませぬご理解、ご協力をお願いいたします。

# 和して同ぜず

帝塚山学園学園長 富岡 将人

学園の「第4次中期計画」に学園のあるべき姿として「帝塚山教育を通じて変化する時代に選ばれ続ける総合学園を目指す」と謳っており、また、このあるべき姿を実現するため次の3つの柱を示しています。

- (1) 教育内容の質の向上
- (2) 組織力の強化
- (3) 財政の健全化

そして、これらを進めるため中期計画の行動計画や各年度事業計画に目標成果物と共に具体的に記載していますし、財政の健全化には、別途「財政健全化計画」3部作の大学編、中高編、小学校・幼稚園編がございます。勿論、私達はこれらを達成しなければならぬ訳ですが、達成への原動力は組織力です。しかし、組織があっても、たとえ一人一人に能力があっても目標に向かって組織的行動を取らなければ力にはなりません。極端に

言えば烏合の衆になり兼ねません。

このことから、私は新年の教職員幹部への挨拶で、今年のテーマは組織力の強化だと申し上げ、経営学者のC・I・バーナードの組織成立の3条件、

- ① 共通目的
- ② 協働意欲
- ③ コミュニケーション

に触れながらお話しさせていただきました。そして、組織人としては「和して同ぜず」に尽き、よく議論をして決まったら協調していく。主体性をなくしてむやみに同調することは、かえって危険ですと申し上げました。私は全教職員が「和して同ぜず」の気持ちになつたとき、あらゆることが成就すると信じています。

皆さんはどう思われますか。

# 教育連携室の1年、そしてこれから



教育連携室次長

奥田 秀紀

2017年4月、第4次中期計画に基づく教育連携の強化を実現するため、富岡学園長をトップとする学園のタスクフォースとして教育連携室が設置された。教育連携室のスタート年となったこの一年を振り返るとともに、次年度に向けた新たな構想を示す。

## 一 本年度の取組

### 第4次中期計画「重点目標」の具現化

第4次中期計画の重点目標として、「教育連携の強化」を掲げ、4月「教育連携小中管理職連絡会議」を立ち上げた。これまでに9回の会議を開催し、内部進学推薦制度の優位性・透明性・公正性を確保するため、判定基準やクラス別人数等について会議決定を行い、帝塚山小学校から同中学校へ希望する全員の入学が実現した年度となった。また、新たに、「教育連携学部・学科長ヒアリング」を実施し、大学各学部学科の現状や課題、その解決に向けての構想を意見聴取した。さらに、昨年から実施の法人ヒアリングを「教育連携室ヒアリング」に改称。学校長、園長を対象に学園内の教育連携を主なテーマとし、具体的

な教育連携の進展に繋げる場となった。

### 教職支援センターの開設・運営

「採用試験合格」から「園・学校の現場」までをスローガンに教育支援センターを開設した。教職支援センターは、教育連携室設置と同時に、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指す学生の希望を実現するため、現代生活学部子ども学科に開設。4年生にとってはまさに直前対策であったが、公立小学校へ延べ14名、公立幼保に延べ20名が合格した。また、帝塚山幼稚園に1名が見事合格し、他の私立幼稚園・保育園に32名が合格した。その他、子ども学科から小学校教諭合格を目指し講師として活躍する学生や一般企業に就職する学生が卒業する。こうして、4月から教員・保育士、社会人として巣立っていく学生のために、『FIRST STEP 教員・保育士、社会人として』を、スタートブックとして発行する。

### 戦略的広報誌の発行

2017年7月に装いを新たにした総合学園の広報誌を創刊した。愛称が「T・time」となった第1号を12月、第2号を3月に発行。「T・time」は、在校生、保護者、卒業生、教職員、学園関係者の方々に帝塚山学園の現状をお伝えし、学園をPRするため、年3回(7月・12月・3月)発行する。

## 二 次年度に向けて

学園の重点目標である「教育連携の強化」の実現は、緊急性の高い課題の一つであり学園創立80周年に向けて解決すべき喫緊の課題である。

学園内の内部連携については、各校種間の相互理解を深め、総合学園の強みが発揮していける取組を具体化していく。また、教職支援センターにおいては、現在、3年生約60名が学んでいるが、採用試験合格実績を上げるとともに、学校現場で即戦力となり得る力を身に付けていけるよう、土曜日開講予定の「英語力向上講座」への参加も含め、次代を担う教員の養成に向けた取組をサポートしていく。

さらに、学園の広報をトータルブランディングし、学園HPのリニューアル(スマホ対応)、ニュースやトピックスなどの日々の情報発信、駅等の広告看板など、対外的広報戦略の企画など、戦略ある広報に努めていく。

2歳児教育から大学院までを有する総合学園としての強みを生かし、幅広い教育連携の取組を一層進め、

学園教育のさらなる充実を目指していきたい。



教育連携室メンバー  
中村 誠  
言江 朋子  
松本まどか  
(写真右から)  
帝塚山小学校 校長 池田 節  
教諭 辰巳 喜之  
帝塚山幼稚園 園長 塚本 真紀

# 「画竜点睛」の大発見



出土してすぐの女神ナナー

## 土の中から1300年前の女神

奇跡の発見だった。

一昨年9月、中央アジア、ウズベキスタンのシルクロードの都市遺跡「カフィール・カラ城」で大学文学部文化創造学科の宇野隆夫教授らは発掘が終わる数日前、奥まった場所に小部屋を見つけ、入り口にアーチ状の壁が現れた。

「ただものの部屋ではない」と思いながらも、日本学術振興会の科学研究費助成事業による4年間の発掘調査が終わった。

それまでの発掘でソグド王の宮殿跡とみられる部屋が見つかったが、離宮なのか、寺院なのか、詰めはできていなかった。

宇野教授は「このままでは画竜点睛を欠

ネットに潜む「落とし穴」⑤ 大学経営学部 教授 日置 慎治

## 見えないネットいじめ



学校生活において、「いじめ」は深刻です。仲好グループからネットなどを通じていじめに遭い、子どもが尊い命を絶つてしまうという、あつてはならないことがありました。

いじめはちょっとしたきっかけで起こってしまう可能性があり、ネットの特性として「周りから見えにくい」「休みの日でも、夜中でも、続く」など対応が難しい面も指摘されています。最悪の事態になる前の対応が必要であり、「傍観者」をなくす取り組みが求められています。帝塚山小学校では全国に先駆けて「STOP it（ストップイット）匿名報告アプリ／報告管理システム」を導入しました。いじめに気付いた人がストレスなく匿名で報告できる環境づくりがますます重要になってくると思います。

これまで5回の連載で、有害情報、デジタルタトゥー、ゲーム依存などネットのさまざまな危険性についてお伝えしてきました。ネットには多くの「落とし穴」が潜んでいます。それを知ったうえで、私たち利用者が安全・安心に利用できるよう力を合わせていきましょう。

# シルクロード遺跡で



発掘現場のカフィル・カラ城



大学 文学部  
文化創造学科  
教授 宇野 隆夫

く。ここで調査しないと後悔する」と昨年9月、大学の研究費などにより、5人の調査隊で発掘を再開した。

玉座と見られる部屋で彫刻した大きな板に当たり、慎重に掘り進めた。

「何だ、これ。信じられない」

土の中からゾロアスター教（拝火教）の女神ナナーが現れた。祭礼の様子を浮き彫りにした板絵（幅1・4メートル、高さ1・3メートル）で、正倉院の宝物の楽器も描かれていた。

「50年の考古学人生で初めて。神様が与えてくれた、わくわくした1週間でした」

年2回の雨季で木製品が残らない。この厳しい環境で、1300年前にアラブ勢力の焼き討ちで表面が焼けたため板絵は腐敗せずに奇跡的に残った。

「玉座付近では王冠やワイナリーも見つかり、地層の下にはソグドの文化がパックされている」

ソグド人は4〜7世紀、何千頭ものラクダで隊商を組み、シルクロードの交易に活躍した。正倉院の宝物には板絵に描かれたのと同様の楽器が残る。

宇野教授は「物は西から東へ伝わる中で、新しい命が吹き込まれ、変化する。ソグドの研究は文化が伝わるメカニズムを知る手がかりになる」と話している。

## がくえん文芸 鴨舟 選

### 俳句

笹鳴の窓辺に猫の耳動く  
小寒の力うどんの淡き湯気

川村 康祐  
坂井 法

### 川柳：課題「頭」

アングリー頭にきちやうアクセント

高1 山崎 渉太  
高1 堀川 裕哉  
高1 益田 夏美

### 短歌

僕は今昨日の君しか見えてない君は明日へと  
進んでいくのに  
「たぐいま」と「晩ごはん何？」はワンセット  
ほんとはおいてほぼ予測済み

中1 泉川 真矢

どう書こう紙きれとペン転がって私の心  
まだ転がって  
実がなつたしわくちやの顔おもいだす  
空につたえる大きくなつたよ

中1 松谷 怜奈  
中1 貞富 梨央

評 短歌一首目。人が、誰かと長く一緒にいたいと思うとき、大切なのは共に成長することだと思えます。進級を目前に、友と共にもう一歩成長したいという気持ちが出た良い歌です。短歌二首目、「ワンセット」「予測済み」の語が、日々の暮らしの中の確かさに改めて気付かせてくれます。毎日を丁寧に生きている作者の想いが伝わります。短歌三首目、メールでやり取りすることが多い年代なのかなと思うのですが、本当に伝えたいことや言葉を自らの中に探しているときには、自然と紙とペンを手にするのでしょうか。「心へまだ」転がって。自分と向き合う真摯な姿が目につく素敵な歌です。短歌四首目、何の「実」なのかわか「しわくちやの顔」は笑顔？皺？読む人が自分の人生と重ね合わせ、さまざまドラマを生み出すことが出来そうですね。そんな無限の可能性を与えてくれる豊かさが魅力だと思いました。

投稿歓迎 住所、氏名、所属を書いて〒63310034 奈良市学園南3の1の3帝塚山学園教育連携室または [tenkei@jinu.tezukayama-u.ac.jp](mailto:tenkei@jinu.tezukayama-u.ac.jp)へ。次回の川柳の課題は「かく（動詞）」投稿作品は、学園関係者の未発表のものに限ります。秀作には記念品を贈ります。5月31日締切。

## 中高同窓会だより

### 母校で成人式

70期生  
308人

「成人の日」の1月8日、高校70期生の成人式（主催・中高同窓会）が学園講堂で開かれた。卒業生の約7割の308人が振袖姿やスーツ姿で集い、恩師や友との再会を喜んだ。同窓会の綿谷基金会長が「人生の目標を定めれば、今日何をなすべきかがわかる。その積み重ねが将来を決める」と20歳の門出を祝福。新成人代表の中塚貴勝さんと堀田舞子さんが「渺渺たる未来に向け、力強く、たくましく生きていくことを誓います」と述べた。



誓いの言葉を述べる中塚さん（左）と堀田さん



### 7期生 野崎先生囲む

7期生の同窓会が昨年11月15日、奈良市の料理店で開かれ、恩師、野崎勇先生を囲み、級友18人が集まった。先生の巧みな指導で数学に興味を持ったなどと歓談、親睦を深めた。

### 13期生 喜寿祝う

13期生の喜寿を祝う同窓会が昨年11月8日、奈良市のあやめ館で開かれ、同窓生27人が出席。恩師の林一彦、齋藤誠両先生を囲み、修学旅行や円型校舎など懐かしい話が続いた。

### 19期生 古希祝う

19期生の古希を祝う同窓会が昨年11月18日、大阪市北区のANAクラウンプラザホテルで開かれ、34人が参加。思い出話に花を咲かせた。同級生の4人組の演奏もあり楽しい一日だった。

### 20期生 91人集う

20期生の同窓会が昨年11月18日、奈良市のホテル日航奈良で開かれ、同窓生91人が出席。恩師の細谷清澄、瀧澤徹、齋藤誠、梅田嘉代子の4先生も参加、歓談した。ビンゴゲームで笑い声が響き、校歌を合唱し集合写真を撮った。



### 中高図書館に51冊寄贈

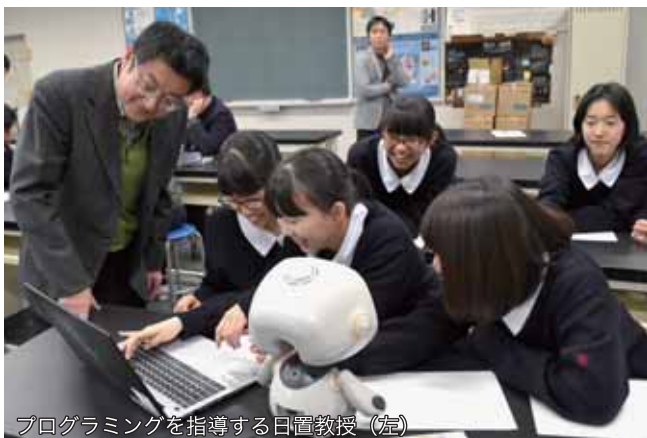
中高同窓会は中高図書館へ図書51冊を寄贈した。平成24年度から実施、今回も中高の図書担当の先生方へ選択いただき、利用頻度の高い本の新調のほか、人気の学習まんが（日本の歴史15編）や話題の随筆集などを寄贈した。

### 顔見世歌舞伎を観劇

文化行事として、師走京都の年中行事、顔見世歌舞伎を昨年12月3日にロームシアター京都（京都市）で約190人の会員と家族が観た。多彩な人気役者の熱演に参加者は昼食休憩をはさみ、舞台に釘付けになった。



## 中嶋・日置教授 中高生にロボット講座



プログラミングを指導する日置教授（左）



中高生と議論する中嶋教授（中央）

大学経済学部の中嶋航一教授と経営学部の日置慎治教授による特別講座「ロボットが変える教育の未来」が昨年12月、高校で開かれ、中高理科部ロボット班の中高生25人が受講した。

中嶋教授は日常的にAI（人工知能）がどのように使われているかをAIスピーカー（スマートスピーカー）で紹介。「ねえ、グーグル」と話しかけ、株価を質問すると、即座に昨日比と最新株価を回答。言葉の解説や外国語の翻訳も英語、仏語、中国語でスムーズに答えた。

中嶋教授は「グーグルは2年前、AI革命を起こし、人間の脳と同じやり方でロボットのアルゴリズムを作った」と説明。

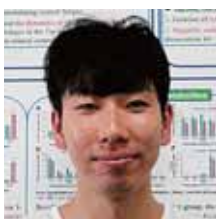
さらに、「経済学では『ただのご飯はない』と教えてくれている。企業は安価なスマホゲームやアプリを提供

する代わりに、企業が欲しい消費者の購買データを集めている。最初に10億人、20億人のデータを取れば、その企業が市場を独占する。それを可能にするのがAIの核心だ」と解説した。

日置教授は自律型ロボット「Unibo」を使って生徒がロボットに何をやらせたいかを考え、プログラミングしてもらった。アイコンをつなぐことで「聞く」「しゃべる」「動く」「表情」が変えられ、生徒は、泣いて俯き、「だじゃれはやめようね」「僕の名前は何でしょう。ゆにぼ、ゆにぼ」などと答えるよう操作した。

日置教授は「何を求めるかでロボットが変わる。漫才や落語、癒し系ロボットもできる。これからもロボットを頑張ってほしい」と話した。

### 心理出身 山下さん論文 Brain Researchに



大学心理学部から大学院博士課程まで本学で学び、英国の国立レスター大で1年間、博士研究員を務めた山下雅俊さんが今春から、京都大学大学院総合生存学館の特定研究員（ポスドク&こころの未来研究センター連携研究員）になる。

山下さんは学部時代、京都府下の小学校で不登校児童の支援活動に携わった。不登校状態の心理生理的な側面として、睡眠障害と精神的疲労のつながりに気づき、睡眠障害が精神的疲労（脳疲労）を起こすメカニズムを動物実験によって解明した。神経伝達物質を軸に脳と末梢神経、さらには行動・認知機能の関連性をつないだ網羅的研究は国内外でも例がないという。

研究論文が世界的な雑誌「Brain Research」に取り上げられるなど国際的に高く評価されている。京都大学では、高齢者の認知機能や脳活動がどのような生活習慣によって変化するか最先端技術を使い、研究を進める。

### 教育連携室 富江主事が講義「夢の実現に」



幼稚園教諭や保育士を志望する大学こども学科2年生60人を対象に教育連携室の富江朋子教育主事が1月に講義を行った。幼稚園園長など40年の経験を通して、「園児の日々の成長にやり甲斐を感じられる先生になってほしい」と話した。

富江教育主事は教職支援センターで3、4年生に面接や実技指導など採用試験対策を担当しており、「ピアノの練習を積み重ねる。読み聞かせは子どもの反応を見ながら読む。子どもを身近に感じる必要がある」とアドバイス。最後に「一歩ずつ前に進み、夢に向かって進んでほしい」と締めくくった。

## 社会へのスタートに「FIRST STEP」創刊



教職支援センターは、社会人として第一歩を踏み出す現代生活学部こども学科の卒業生に、社会人としてのマナーや心構え、教員・保育士として知っておきたい知識や技術などについてまとめた冊子「FIRST STEP 教員・保育士、社会人として」を作成、3月20日の卒業式で贈呈する。

冊子はA5判、48ページ。「社会人として」と「教員・保育士として」の2部構成となっている。

1部の「社会人として」では、社会人としての心構え、あいさつの基本、身だしなみ、姿勢と立ち居振る舞い、言葉遣い、電話対応の基本、名刺交換のマナー、席順のマナー、宛名書きのマナー。2部の「教員・保育士

として」では、子どもの話の聴き方、子どもとの関係づくり、子どものほめ方・叱り方、保護者との信頼関係を築く「さしすせそ」、家庭訪問の5つのポイント、学級開き～最初の3日間～、教室環境を整える、板書の準備、保育の準備、よい発問の条件を記載。

小学校・幼稚園教諭・保育士を目指すこども学科の学生に面接指導や実技指導などの採用試験対策に取り組んできた教職支援センター奥田秀紀センター長を中心にセンターの教職アドバイザーらがチームで執筆。監修は富岡将人学園長が務めた。

表紙デザインは、社会人としての第一歩をイメージした波打ち際での撮影。同学部居住空間デザイン学科4年生の上田知憲さんと佐藤美鈴さんが作成、辻川ひとみ学科長、新海俊一准教授が監修した。

奥田センター長は、「人の笑顔のために頑張る社会人になること、自分以外の誰かの幸福のために役立つこと、それが働くことの意味である。自分本位ではなく、他人本位になることが社会人としての第1歩になるだろう」とメッセージを記している。

### 社会人基礎力 グランプリ 河合ゼミ生 全国大会出場

「社会人基礎力育成グランプリ2018 全国大会」が2月20日、開かれ、現代生活学部食物栄養学科の河合洋見教授のゼミ生が、近畿地区代表として出場。過疎化の進む五條市の道の駅で3年目を迎えた学生レストラン「TEZU cafe」について発表した。

発表者は同科4年生の亀井結さん、村上友美さん、由井良祐さんの3人。同市の特産、柿をペーストにしたかき氷を商品化する際、業者と交渉。地域振興を目的にしていることを知ってもらい協力を得た。夏の24時間テレビの屋台で販売した「スティックカレー」を春巻き状にして揚げ、保健所に指摘された衛生面の問題を解決したことなどを紹介した。大会には、全国から地区代表9チームが出場。入賞は逃したが、地域に密着し、3年間継続した活動が評価された。



発表する河合ゼミ生

### 経営学部 近鉄講座 遷宮で発展 伊勢志摩観光

本年度で7回目となる大学経営学部の近鉄グループ提供講座「観光ビジネス入門」が昨年9月から2月まで計15回にわたって行われた。1月18日は近畿日本鉄道鉄道本部企画統括部観光・宣伝部の岡田英美課長が「伊勢志摩リゾートをモデルにしたリゾート開発事業」を解説した。



伊勢志摩は「お伊勢まいり」で江戸時代から観光地として栄え、豊富な魚介などのグルメに加え、リアス式海岸で風光明媚。近鉄グループは20年に一度の伊勢神宮の式年遷宮を契機に、ホテルやレジャー施設の開業、さらに「乗ったときからリゾート」と、大阪や名古屋などから賢島までの観光特急の直通運転を手掛けてきた。

一昨年の伊勢志摩サミットでグループのホテル、旅館が会場になり、「ラグジュアリー・リゾート」として大人の癒しの場のイメージができた。

岡田課長は「高齢化社会を迎え、中高年層の対応が課題。温泉や健康スポーツのキャンペーンを進めている。その一方で、いろんな人に気軽に来てもらえるよう細分化して対応していきたい」と話した。

講座「観光ビジネス入門」は、鉄道、ホテル事業、テーマパーク運営、旅行ビジネスなど担当者から情報が提供された。



作品の前に12人が勢ぞろい

### 高3女子 最後の書道パフォーマンス

書道を選択する高3女子生徒12人による「書道パフォーマンス」が昨年11月28日昼休みに、大勢の中高生が見守る中、中高グラウンドで行われた。

パフォーマンスは平成23年に書道選択者の強い要望で始まったが、カリキュラムの編成に伴い、今回が最後となった。

GReeeeNの曲「オレンジ」に合わせて縦3行、横9列の紙面にひとりひとりが歌詞の一部を書き、最後に「想」という文字を赤で大筆を用いて書き上げた。

最後は作品の前に12人が整列。詰め掛けた生徒たちから大きな拍手が送られ、笑顔でポーズを決めた。

### 本当のグローバルコミュニケーションとは 平田オリザさんが講演



劇作家の平田オリザさんが1月29日、中3生全員にグローバルコミュニケーションについて講演した。

平田さんは列車の座席で外国人と向か合った場面で「人種や民族によって話しかけると失礼なこともある。英語で話しかけるのがコミュニケーション能力ではない。文化、コミュニケーションの多様性をおそれ、新しい文化に触れるときに、謙虚になることがグローバルコミュニケーションのスキルだ」と話した。

中3生は、2020年の大学入試改革を受ける最初の年代。「合格は7～8割が基礎学力。残り2～3割は多様性で決まる。これからは複数解答の問題が出される。意見の違う人との合意形成能力が求められる」と話した。

### 中高ロボット班 FLL全国大会でコアバリュープレゼン賞



中高理科部ロボット班が2月11日、東京工業大学で開かれた「FLL (ファースト・レゴ・リーグ) 全国大会」に西日本代表として出場。ロボット競技と課題解決についてチーム全体の取り組みを発表し、「コアバリュープレゼンテーション賞」を獲得した。チームは、于京芳(2G)、大江宏明、駒井麗大(以上1C)、須浪千聡(3八)、河村香穂(2五)の中高生5人。

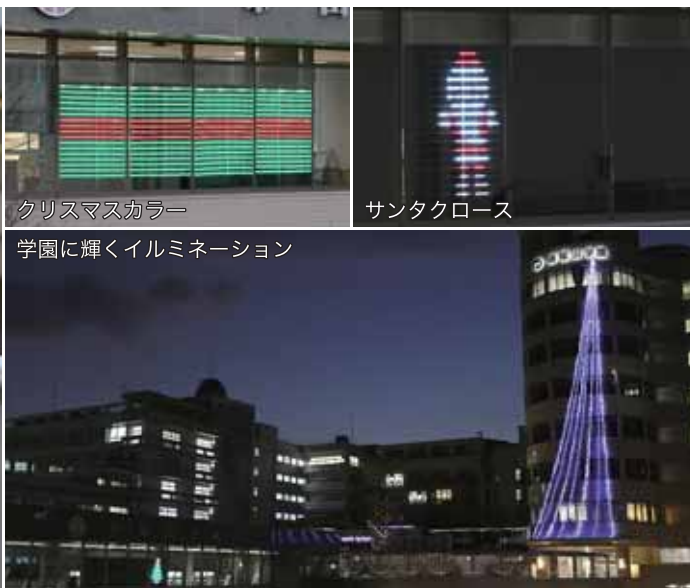
課題の「ハイドロダイナミクス(水循環)」から「節水」をテーマに、水道の蛇口に取り付けると水量に応じ回転する歯車をセンサーでよみ、リアルタイムで水道使用量を表示する装置を開発した。住宅器具メーカーから「リアルタイムは画期的。複数付ければ、どこが多いかがわかる」と評価されたことを発表した。大江君は「スマホアプリで見られるものができれば」と話した。

## ツイッターで彩る「光の学園」 高1馬淵さん システム考案



ツイートする馬淵さん

学園前キャンパスを彩る年末恒例の大学生によるイルミネーションに中高理科部ロボット班が協力。高校生部員の馬淵成美さん（1H）がツイッターでつぶやくと、色や形が変化し、インタラクティブ（双方向）で楽しめる電飾パネルを昨年12月8日～25日に17号館デッキで披露した。パネルは高さ1.8m、幅6.4m。テープLEDを貼った。夜をイメージした青色の横線、上下にクリスマスカラーの緑色、中央に赤色の線が現れる。ツイッターでキーワードを入れるとサンタクロースやクリスマスツリーが現れ、左に移動する。



クリスマスカラー

サンタクロース

学園に輝くイルミネーション

馬淵さんは「学内だけでなく、バスを待つ人にも楽しんでもらいたい」と先輩の大学生に相談。ツイッターとの連携にはJava言語とProcessing言語が必要なことや、エクセルで表示した絵を16進数にすることを教わり、プログラミング。ロボット班の仲間が電飾パネル作りを応援した。今回のイルミネーションは「光の学園」をテーマに、16号館に巨大なツリー、はとの広場に電飾の回廊などが出現した。蓮花一己学長は「中高が参加し、さらに学校の連携を強め、光輝く学園になるという願いを込めた」と話した。

### 情報五輪日本代表候補に大森君（高2）



第17回日本情報オリンピック本選が2月10、11の両日、茨城県つくば市で行われ、本校からは数学研究部の大森智仁君（2A）＝写真＝と木村岳史君（3二）が出場した。

大森君は500満点中、249点で優秀賞をとりトップ20入りし、国際情報オリンピック日本大会の日本代表選手候補に選ばれた。3月19～25日に東京で合宿があり、うち4日間、問題が出され、代表4人が決まる。

情報オリンピックは、7つある国際科学オリンピックのうち、数値情報科学の処理能力を競うプログラミングコンテスト。昨年12月にオンライン上で予選が行われ、全国から961人が参加、本選には80人が出場した。

国際情報オリンピック日本大会は約85カ国・地域から選手約320人が参加して、9月につくば市で行われる。

### 高2生チーム 科学の甲子園に初出場



3月16～19日、さいたま市で開かれる第7回科学の甲子園全国大会に高2生チームが奈良県代表として初出場する。綾本碧尉▽久保田晴貴▽森克斗▽菅田大輝▽米田龍矢（以上A組）▽于京芳（G組）▽保田悠花（I組）の7人。昨年11月の県大会で物理、化学、生物、地学、数学、情報の6教科の筆記試験と長さ75cmの針金でコマを作り、回る時間の長さを競う実技などが行われた。コマを団子状の塊にして、重心を下げたところ、約15秒間回り、東大寺学園など他の5チームを圧倒。教科と合わせ最高点をあげて優勝した。リーダーの久保田君は「一緒に頑張ってきた仲間をリスペクトし、チャレンジしたい」と語った。

## 中学校コーラス コンクール 3年7組に最優秀賞



3年7組の合唱

第63回中学校コーラスコンクールが2月15日、奈良県文化会館国際ホールで開かれた。結果は次の通り（クラスと曲目）。

最優秀賞＝3年7組「夜明けから日暮れまで」

### 【1年生】

金賞＝8組「白い馬」▽銀賞＝7組「四季のソネット」より春▽銅賞＝4組「君をのせて」10組「ぼくらのエコー」

### 【2年生】

金賞＝9組「リフレイン」▽銀賞＝5組「チョコタン」▽銅賞＝7組「川よ虹と星と」

### 【3年生】

金賞＝8組「春」▽銀賞＝9組「片耳の大鹿」よ▽銅賞＝6組「風の馬にとびのって」

### 【優秀指揮者賞】

田中直幸（2一）脇田紗綺（2五）畑美智子（2七）  
小池みのり（3七）鈴木仁日那（3九）

### 【優秀伴奏者賞】

御堂潤（1一）松本凌典（1三）津田多香子（2五）喜多由結（3八）

## 雨活アイデア コンテスト 松本さん(中2)作文 全国1位



雨水を活用する「雨活アイデアコンテスト2017」（雨水市民の会など主催）の作文部門中学生の部で、松本典子さん（2五）の「各家庭で雨水タンクを設置しよう」が最優秀賞に選ばれた。2052件の応募作文の中で全国1位になった。

松本さんの亡くなった祖母は自宅に雨水を貯めるドラム缶を置き、園芸や生活用水に活用。「水一滴たりとも無駄にしない心がけが日本を救う」と教えられた。

作文では、タンク設置は生活用水への有効利用にとどまらず、下水道への雨水の流入を減らし、洪水の緩和にもつながると主張。

こうした循環型社会実現に向け「自分に今、何ができるか考えて行動することが大切だと祖母から学んだ」と締めくくった。

## 埼玉工大 CGコン 泰地さん、藤本さん(中3)に優秀賞



第14回埼玉工業大学CGコンテストの中学生静止画部門で数学研究部の泰地綸さん（3六）の「海の星」（写真右）と藤本京子さん（3五）の「箱庭少女」（同左）が優秀賞を獲得した。優良賞には、大森美咲さん（2九）、保山杏樹さん（2七）、井内千里さん（3七）。また、佳作に志村梨央さん（2九）、田中彩絢さん（3五）、青木瑠美さん（3七）が入った。

高校生静止画部門の優良賞に中村彩花さん（1H）が入った。

## 海の作文 コンクール 井手野さん(中3)に金賞

第51回中学生海の作文コンクール（近畿海事広報協会主催）で井手野桃佳さん（3七）の「失われた街」が金賞を獲得した。井手野さんは、東日本大震災の風化が進む中、津波に襲われた宮城県を訪ね、被災者から体験を聞いた。南海トラフ大地震が予想される中、同じ悲劇を繰り返さないために震災の記憶を「伝える」ことの大切さを訴えた。

銀賞に北條萌香さん（2十）▽銅賞に麻植あかりさん（同）清水絵莉夏さん（1九）が選ばれた。

## 第52回中学校英語暗誦大会入賞者

【中1】優勝＝三船あか梨（十）優秀賞＝山田慶次郎（三）五味隼（四）甲斐真優花（五）西野まい（八）

【中2】優勝＝大西真央（七）2位＝齊藤里和（十）3位＝植田大貴（三）

【中3】優勝＝鈴木仁日那・山下理子・山田理愛（九）2位＝石谷文香・岡島幸希・喜多由結（八）3位＝秋野有咲・一法師佐季・田中心菜・堀亜沙伽（七）市川智也・西岡幸浩（二）

## 第51回高等学校英語スピーチコンテスト入賞者

【高1】優勝＝小西真梨明（I）2位＝大伴菜由（H）3位＝甲斐一都美（D）

【高2】優勝＝谷口朝洋（A）2位＝田中佑奈（H）3位＝市川龍（B）尹瑞樹（G）

## 第70回高校卒業式 411人巣立つ



池辺校長から卒業証書を授与される生徒

学園内の学校のトップを切って、第70回高校卒業式が2月14日、学園講堂で行われ、411人が卒業した。卒業生1人ひとりの名前がクラス担任から呼ばれ、池辺政人校長がクラス代表に卒業証書を手渡した。

池辺校長は式辞で「今日の皆さんの幸せな気持ちを後輩に受け継いでいきたい。自分を磨き、自らの人生を歩んでください」と述べた。

富岡将人学園長は「グループ、組織に協調しながらも自己実現をはかってください」と祝辞を述べた。

卒業生を代表して拝郷亮太君（C組）と秋山あゆみさん（E組）が学園の行事や、クラブ活動の思い出を語り、「帝塚山での知識、経験を生かして、何事にも挑戦していこうと思います」と力強く語った。

皆勤賞は次の皆さん

【小・中・高12年間】

内野整、陣内亮輔、岩井里紗、小野南月、河野祝香、小川照世

【中・高6年間】

羽田野裕貴、室和希、佐藤皓太、清水克俊、竹脇直哉、

竹中優、中村誠大、田和茜音、西村梨恵、並河紗奈、西村茉佑子、蘭琴実、河合真未、芦田萌、加治あおい、川口真穂、小林真弓、柿本晴香、猿渡亜玲、松本果歩、江上静子、澤田智佳子、田中伶奈、脇田梨左

【高校3年間】

辻康生、中田篤志、井上知哉、阪本康平、日野泰誠、松谷雄大、山田葵、米田莉穂、井上薫、木村梨子、坪田安奈、松田祐佳、村田梓、大淵しほり、藤本有美桂、森聖奈、矢敷泉、安井美優、吉岡あかり、植村真衣、北山結梨、福田明莉、山田真衣、石橋都、西村知夏、安原朱莉、米谷友里、若林茉侑香、神戸瞳子、小路幸奈、宮本葵、青木史帆、有山葵、大上侑里子、土井実春、中川南実、埜田美桜、水野早季子

## 中学入試 志願者1992人

平成30年度中学校入試は1月13日～15日、行われた。少子化で受験生が減る中、本校の志願者は前年（2009人）並みの1992人で競争率は6倍を超えた。

## 同窓会 7クラブを表彰

学園（中高）同窓会は2月21日、平成29年度に全国大会に出場した中高7クラブの生徒代表に表彰状と奨励金を贈った。クラブと出場大会、生徒代表は次の通り。

【中学校】放送部＝第34回NHK杯全国中学校放送コンテスト（山中睦未）▽陸上部＝第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会（小原夢美）▽数学研究部＝第17回日本情報オリンピック本選（木村岳史）

【高校】放送部＝第64回NHK杯全国高等学校放送コンテスト（関彩里）▽ギターマンドリン部＝平成29年度全国高等学校ギターマンドリン音楽コンクール（奥田綾乃、布谷日菜子）▽理科部ロボット班＝WRO2017コスタリカ国際大会、FLL全国大会、RCJ全国大会（大



江宏明）▽ダンス部＝第30回全国高校・大学ダンスフェスティバル（楠本真由奈）▽数学研究部＝第17回日本情報オリンピック本選、パソコン甲子園2017プログラミング部門本選、パソコン甲子園2017CG部門（大森智仁、米田龍矢、杉原美咲、保田悠花）

## 大学2学部協力 連携授業 「昔の暮らし」 2年目は露店体験も



射的で遊ぶ児童



昔の薬を手取る児童

露店を再現し、小学3年生が買い物などを体験して、奈良の昔の暮らしを学ぶ特別授業が2月14日、大学文学部日本文化学科と現代生活学部居住空間デザイン学科の協力で視聴覚教室で行われた。

昨年、連携授業を行った日本文化学科の高田照世准教授のゼミ生と大学院生のほか、今年は同科の花田卓司講師のゼミ生と居住空間デザイン学科の小菅瑠香准教授、矢部仁見准教授のゼミ生も加わり、総勢約40人で準備が進められた。

学生は、天理市福住町で呉服商が子どもたちに描き残した画帳を元に、明治末期から昭和初期の行商で、どんな物が売られていたかなど現地聞き取りを行った。

授業では、魚屋、鍛冶屋、薬屋など絵のスライドを見せながら、学生が児童にクイズ形式で進めた。また、中世の洛中洛外図も投影し、昭和初期までの暮らしが数百年前とかわらなかったことも説明された。

小菅、矢部ゼミ生は段ボールで陳列台、テント地と角材を組み合わせた露店を教室前の廊下に再現した。紙粘土で作った団子、ミカンや柿、ゆで卵などの模型を陳列、魚は海から離れているため、塩サバや塩鮭、干物など。薬屋には、頓服薬など当時の薬袋のコピーも展示された。児童は陳列品を手に取り、紙のコインで買い物をしたほか、射的などの遊びも体験。さらに、紙風船づくりにも挑戦した。

### 3年生 学生とアップルパイづくり



3年生は昨年11月、大学現代生活学部食物栄養学科の4年生（新宅賀洋ゼミ）の指導で青森産リンゴを使い、アップルパイを作った。

調理法は、春巻きの皮に砂糖で煮たリンゴジャムを載せ、溶かしバターを塗って包み、もう1枚を重ねる。

グループに分かれ、学生の指導で思い思いに仕上げ、油で揚げてもらい完成。自分で作ったアップルパイを「おいしい」とほおぼっていた。

### 教育連携室 松本主幹「マナーは幸運の鍵」



教育連携室主幹で客室乗務員の経歴をもつ松本まどかが昨年12月4日、「まわりの人を気持ちよくさせる礼儀とマナー」について全校児童に話した。

電車内や食事のマナー、身だしなみについて禁止事項などイラストを使って説明。「マナーはみんなが気持ちよく過ごせるための思いやり。小学生のときからマナーを身につけると、習慣にしているよかったと思うときが来る。マナーは幸運と人の心を開く鍵」と話した。

## クラスがひとつ 代役で支え合い

学習発表会 6年月組「聲の形」を劇化



合唱する6年月組

1年間学んだ成果を演劇にした学習発表会が2月9日、体育館で開かれた。各クラスが丸となって、歌や踊りを交えたテーマ劇を熱演した。

6年月組は映画「聲の形」を参考に担任の津村壮浩先生が台本を作成した。耳の不自由な転校生がいじめにあう中で、「本当に心が強いのは、人にやさしい心を持つことだ」とクラスメートが立ち上がる。近づく音楽祭で「クラス全員がひとつになって歌いたい」といじめっ子と対面。転校生のピアノ伴奏で「マイバラード」を歌う。

最初、転校生は自信がないと断ったが、「ピアノに合わせて歌うから、好きなように弾いて」と励まされ、実現する。「悲しいときも、つらいときも、みんなで歌おう」と合唱し幕が下りた。

児童の多くが病欠したため、代役をたてて、本番直前まで練習。ピアノ伴奏も2日前に交代したが、最後まで協力してやりとげた。

池田節校長は「りっぱに劇を仕上げてくれた」とたたえた。

## 担任もクラスも全員参加の英語劇



クリスマスムードあふれる英語劇

全員参加の英語劇「TEZUKAYAMA WINTER FESTIVAL」が昨年12月9日、小学校体育館で開かれた。

前年から、クラス全員参加型の発表を試み、今回はクラス全員と担任も参加し、パワーアップした。

1年星組はコートボタンが一つ一つ取れる「サンタのボタン」。「HOW MANY BUTTONS?」と問いかけると、担任の佐々木智子先生が現れ、全身で数字を表現。

4年月組は奈良公園で大きな卵を見つけた「ぐりとぐ

ら」。卵を調理してクリスマスケーキを作り、たくさんの動物が集まり、みんなで食べる劇。

2年月組は「ジンジャーブレッドマン」。クッキーが食べられないように逃げ回り、ワニに助けを求めた。ワニは背中から、頭、鼻へと誘い、最後は食べてしまう。担任の山田元樹先生もワニになって盛り上がった。

どのクラスの児童も練習の成果を発揮して、のびのびと発表した。



## 小学校 英語 この1年でぐんと上達

小学校英語専科の森本敦子教諭による「イングリッシュ・タイム」の今期最後の授業が1月29、30日、年長から年少までの各クラスで行われた。

英語に慣れ親しみ、英語で先生から学び、友達といっしょに学んで楽しむ。保育内容や季節の流れに合わせて、園児の体験に近い素材で月1～2回、続けてきた。

英語の歌に始まり、物語の登場人物や場面が立体的に飛び出す絵本、ABCの単語練習も途中にモンスターが現れ、園児たちはハラハラどきどき。カードと同じ色や形を教室内で探す遊びは全員が走り回って楽しんだ。

年少は虫、魚探し。年中は英語の歌を歌いながらの指遊び。年長は小学校につながるよう、知っている単語とアルファベットをリンクさせるプリントを使い、アルファベットを見慣れるよう工夫した。

森本教諭は「みんな最初と比べ、反応がよく、吸収力



英語の絵本を見る年長児

はすごい。1学期でできなかったことが2学期にでき、3学期へと次につながっていく。遊びを通じて英語の学びをサポートしていきたい」と話した。

### 小学生 英語絵本読み聞かせ

小学校の国際交流部の4、5年生10人が昨年11月24日、幼稚園で英語絵本の読み聞かせをした。

絵本は、ワニの親子を描いた「See You Later, Alligator」▽かくれんぼする子犬の「Where's Spot?」▽魔法のハサミ「Magic Scissors」。3～4人で3グループに分かれて読んだ。

ワニの絵本は、子どものワニを指人形で見せ、読み手も園児といっしょに楽しんだ。子犬の絵本は、隠れた場所の紙を園児にめくってもらおうと、中からクマやヘビ、ライオン、ペンギンなど多くの動物が現れた。

ハサミの絵本は小学校英語専科の森本敦子教諭が作った。文房具が誕生パーティーにケーキを作ってくれる物語。いずれも、たくさんの絵本の中から部員が選んだ。



読み聞かせをする小学生

### 園庭で雪合戦



奈良市内が雪化粧した2月1日、登園した園児は、雪で真っ白な園庭に飛び出し、さっそく雪を転がして雪だるまをつくった。先生や仲間たちと雪合戦を始め、園児の元気な声が響いた。

### 寒風に負けずドッジボール



年長組のドッジボール大会が1月30日、リズム室屋上で行われた。寒風に負けず、園児はボールが往復するたびに、前後に走り、歓声をあげた。体操の先生から「春から小学生。みんな頑張って」と激励された。

生活発表会 園児たち 心豊かに表現



笑顔で劇をする年少児たち

幼稚園の生活発表会が2月24、25の両日、リズム室で開かれた。初日は保護者や祖父母ら家族が訪れ、練習を積んできた園児の劇と歌に大きな拍手を送った。翌日は、近畿圏の公、私立幼稚園や保育園関係者が園児の発表を見学した後、研究協議会が行われた。

塚本真紀園長は「衣装ではなく制服姿で演じ、背景画もすべて子どもたちの手作り。素朴さの中に子どもたちの気持ち、こころがこもっています」と話した。

年少から年中、年長組の順に行われ、担任の先生のナ

レーションとピアノ伴奏で物語が進み、最後は歌で締めくくった。

年少組はリスやウサギなどの動物に扮して登場。森や野原の動物になりきって演じた。年中、年長と進むにつれ、せりふも多くなり、年長は「まぶしい」と空を見上げるなど演技力も抜群。迫力のあるインディアンのダンス、リングを使った人魚の踊りなどの見せ場もあり、保護者席からは「すごい。感動した」の声も聞かれた。最後に全園児が集まり、「ひなまつり」「春」を合唱した。

豆まき 今年も赤鬼青鬼が来た！



節分前々日の2月1日、幼稚園で恒例の「豆まき」が行われた。

棍棒を持った赤鬼と青鬼が「悪い子はいないか」と現れ、床をドシン、ドシンとたたきながら、各教室を回った。もじゃもじゃの長髪にトラのパンツと赤と青のはっぴ姿。豆まきの練習をしていた園児も突然現われた鬼の迫力に教室を逃げ回り、担任の先生にしがみつきながら泣き出す園児もいた。

それでも「鬼は外」「福は内」と鬼をめがけて果敢に豆を勢いよく投げる園児もいた。

表紙 辻川ひとみ学科長、新海俊一准教授(大学現代生活学部居住空間デザイン学科)の協力で、愛称「T-time」にふさわしいイメージでデザインされています。「T-time」は、在校生、保護者、卒業生、教職員、学園関係者の方々に学園の現状をお伝えし、学園をPRするため、年3回(3月・7月・12月)発行しています。



# Tezukayama Gakuen

2018/Mar.

第2号

2018年3月8日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



学校法人 帝塚山学園  
Tezukayama Gakuen

【編集・発行】帝塚山学園 教育連携室  
〒631-0034 奈良市学園南3丁目1番3号  
Tel:0742-41-4750 / Fax:0742-41-4662